



修道会リーダーシップチーム (CLT) の ミニストリー (任務・職務) の一年目のレポート

(要約)

私達の職務の一年目が終わろうとしているところ、これまでたどってきた道のりをご報告したいと思います。私達の任期が始まって2か月目に入ったところで、コロナウイルスのため、軌道修正をしなければなりません。このレポートはこの一年間の概要を提供します。

- **コミュニケーション**。オープン・ハウス、毎週のコロナのアップデート、手紙、ビデオ、アンケート、「We Are Carondelet (私達はカロンデレットである)」や「Life of the World (世界の命のために)」、等を通して皆様とコミュニケーションを取りました。JPIC (Justice, Peace and the Integrity of Creation<正義、平和、そして創造物の保全>)やほかのグループと共に、政治家、国会議員や政策担当者に主張や唱道のレターを送りました。
- **チームのデベロップメント (発展・成長)**。ファシリテーター (コンサルタント) に手伝ってもらい、良く機能するチーム作りに務めました。
- **総会の方向性**。2019年の総会で決まった方向性に向かうことに多くのエネルギーを注ぎました。詳細事項はレポートに記載されています。
- **修道会内での会合**。コロナのため、全員インターネットを活用しコミュニケーションを取る方法を学びました。そのお陰で、管区・副管区間の境界線を越えた会合を行うことができました。
- **焦点を置いた課題**。LCWR (The Leadership Conference of Women Religious-宗教的女性のリーダーシップ協議会)や連盟の提案に沿って人種差別、移民問題、人身売買をテーマに取り上げたり、その他に注意を向ける必要のある世界情勢なども課題にしました。
- **リエゾン (連絡係) の責任・任務**。私達はあらゆるグループの連絡係を務めています。
- **日常業務**。組織を運営するために必要な日常業務の管理もしている。
- **スタッフのサポート**。素晴らしいスタッフのサポートがあるお陰で私達はこのように機能することができます。

イントロ：プランの変更

2019年12月に、前CLTのメンバーと会って会議をし綿密なオリエンテーションをしてもらい、その後、数日間私達だけで残って、独自のプランを立て始めました。1月13日に新しい任務につき本格的に活動を始めました。頻繁に会議を重ね、目標を立て、先々の会合の企画をし、旅行の日程を定め、コンサルタントのアドバイスをもらいながらより良いチーム作りに努めました。意欲満々のスタートを切りました。セントポール管区との最初の視聴会議に参加するため正に車で向かっている真っ最中にコロナのため、3月の中旬に全てがロックダウンになりました。皆様と同じように、その時点で一歩下がり、新しい現実のための軌道修正をする必要が出て参りました。速やかにZoomの素晴らしさを学んで活用し、そこから前に向いて前進しました。以下にこの一年間の任務の詳細をご報告いたします。

コミュニケーション

私達は二通りのコミュニケーションの方法を取り入れました。一つはシスターやACOFとの内部的コミュニケーション。もう一つは外部的に個人、或いは組織に向けた唱道等のコミュニケーションです。

内部コミュニケーションに関しては、Zoomを活用した「オープンハウス」を企画し、週末をかけてできるだけ多くの人に参加できるよう数回に渡ってZoomの会合を行いました。テーマを決めた会合もあれば、オープンで参加者が自由に表現できる会合も行いました。多くの皆様が参加してくださったのでとても嬉しく、このZoomの集会を通して修道会全体に渡りお互いと再会したり、新しい人と出会ったりできたことが良かったと思います。時にはいろいろな深い話合いにもなり、とてもいいことだと思います。更に、お互いの現状を確認するために毎週のコロナのアップデートと毎週ポエム（詩）を皆様に送り始めました。皆様に、総会の方向性を導入してもらうためのアンケートも送りました。そして特定なテーマについて皆様に手紙を送り、ビデオも提供し、中には笑いを誘う手紙やビデオも用意しました。月に二回、皆様をアップデートするためにニュースレター「We Are Carondelet（私達はカロンデレットである）」を発行し、総会で話し合った方向性を振り返るために毎月「For the Life of the World（世界の命のために）」というタイトルで皆様にインビテーションも送りました。

主張・唱道の文書に関しては、「信頼性」のあるトピックを選び、レターやステートメントには私達が実際に取り組める内容と共に提出しました。LCWR (The Leadership Conference of Women Religious-宗教的女性のリーダーシップ協議会)、連盟、そして私達のJPICグループが文書の作成の援助をしてくれています。今年は、死刑罪、使い捨てプラスチック、人種差別に対し、反対であるという主張をし、刑事司法制度の改革にも力を入れ、女性の能力を認め賞賛する教会・宗教リーダーをサポートしました。

チームのデベロップメント（発展・成長）

インターネット上でしか会議ができなくなった中、Karen Vernal という素晴らしいファシリテーター（コンサルタント）のお陰で、とても効率よく機能できるチームを結成することができました。3日間に渡って Karen は私達があらゆる面での技術を伸ばせるよう援助してくれ、潜在的なトラブルについて警告し、そして私達が成功できるような色々な目標や方策を立てる手伝いをしてくれました。もっと大きな規模では、私達は LCWR のアセンブリーと連盟のリーダーシップ・アセンブリーに参加しました。ローカルなレベルでも毎月 LCWR の会議と各地域の LCWR の会合にも参加しました。更に CLT は共に二冊の本を読みました。Rev. Bryan Massingale の「Racial Justice and the Catholic Church」と Phyllis Zagano の「Women: Icons of Christ」です。

今年は、旅行の制限があったため、その代わりにインターネットを活用し、人種差別、正義の修復、環境の変動などのトピックについてのウェビナーを受ける機会に恵まれました。中でも最も役に立ったウェビナーは異文化交流についての8クラスのコースでした。これらのウェビナーやクラスで学んだことを修道会に配布する機関誌やレターにて皆様にも紹介させていただきました。CLT のメンバーは皆それぞれ「家」にいたため、頻繁にインターネットを活用したミーティングを行い、そのお陰で能率よく仕事ができ、チームの成長にもつながりました。

総会の方向性

私達のチームのミッション（使命）：2019年の総会のエネルギーを伝えること。なので、私達の任務の大部分はその使命に集中しました。2020年4月に皆様に送った総会の方向性に関するアンケートの答えが、この使命を実行するプランニングに大いに役立ちました。総会の方向性一つ一つを描き出すに置いて、「修道会内での話し合いやシェアリングをする機会を提供し続ける」という総会で出た目標の一つを取り入れるよう努めました。では、主なる総会の方向性・目標を見てみましょう。

地球の危機と地球温暖化への対応

地球の危機に関しては、皆様に情報を提供し、実行に移すことをお願いしました。二つの大きなイベントは「ラウダート・シのイベント」と「創造の季節」でした。2020年4月にラウダート・シの5周年記念を祝い、1週間に渡ってプレゼンテーションや様々な活動を行いました。ラウダート・シのプログラムの内の三つのプログラムは3か国語で企画され、1,019人も参加者がありました。ラウダート・シの内容についての教育と使い捨てプラスチックの及ぼす被害に重点を置いたイベントでした。個人ベースと共同ベースでの祈りや実践項目が提供されました。

聖ヨセフの姉妹の米国連盟と共に、2020年の9月と10月に「創造の季節」の5週間のプログラムを企画しました。このセミナーは使い捨てプラスチックの生産とそれによる環境汚染を阻止する対策に焦点を置きました。多くの方が創造の季節のアクティビティに参加して下さり感謝しています。制作した数本のビデオは1,269回視聴され400人以上のメンバーが開会と閉会の祈りに参加しま

した。創造の季節のハイライトは、使い捨てプラスチックの使用を減らすための手段として、環境的回心についての話し合いをし、環境的回心の体験を深めるための祈りの日誌に参加していただき、3か国語（英語、日本語、スペイン語）で用意された複数のプレゼンテーションなどを行いました。

自己の犯している共犯への認識を深め、抑圧の連動システムを取り壊す方向に働きかける

抑圧の連動システムを取り壊す手段の第一歩は、自分のこのシステムとの関わりを認識することです。そのためにいくつかの教育手段を企画しました。まずは月間ニュースレター「For the Life of the World（世界の命のために）」を発行し、様々な面での抑圧のシステムに対して反省し考えることを促す機関誌です。ここでは、情報を提供するだけでなく、心を変えてもらうというのも一つの目的です。ニュースレターを配布するたびに、このディスカッションを継続していけるように皆様からのフィードバックを送ってもらうよう依頼しています。

各管区の JPIC チームや修道会中のシスター達もそれぞれ皆、私達 CLT の援助や補佐をしてきています。文献を読んだり、ウェビナーに参加したり、世界情勢の最新情報を得て、抑圧のシステムに関する私達の理解度を深めてくれたり、可能な時にはその情報を実践に移し主張・唱道文を作成・提出もしてくれます。このような圧政的組織を取り壊そうと動いているグループや組織にノウハウやサービスも提供しています。更に、LCWR の Region X と提携し、アメリカや世界で起こっている人種差別、移民問題、環境の変動等の交差・交点を追求・論議できるよう、ライブストリームのパネルディスカッションの企画にも関わっています。私達はバックグラウンドのリソースや情報を提供し、多くの人に政治家や国会議員等に呼びかけ、刑事司法制度を改革するよう抗議をすることを奨励しました。CLT は世の中を変えていこうと努めている国内外のあらゆる宗教的組織、あるいはその他同じ目的を持つ組織と力を合わせ共に努力していく所存です。

昨今の現実に見合った自分の誓願を明瞭に表現し、確実に生きる（実行する）

最初の目標はスピリチュアリティ（霊性）の色々な面をハイライトすることです。その目標を達成するための一つの手段として、修道会全体と ACOF に Sharing of the Heart/Order of the House（心の状態の分かち合い/共同体のあり方）に参加するよう呼びかけました。修道会の多くのシスター達と連盟の協力のお陰で、このプロセスを皆様に説明するためのビデオを二つ制作しました。これに関連する文献もいくつか準備いたしました。各管区・副管区を代表するコミッティーがこのプロジェクトに取り組んでおり、進行役（招集者）35名が2021年のLent（四旬節）の期間中に最初の小グループの補佐・進行役を務めます。昨今の社会の動乱、特に2021年1月6日の国会議事堂での暴動に対し、私達のカリスマの精神に沿った結束、平和と正義のために祈るための Novena（連続9日間の祈り）も用意しました。この Novena に参加するようシスター達や ACOF を招待しましたら、とても沢山のリスポンスをいただきました。

女性たちと力を合わせ教会内や社会においてもっと女性を認め、受け入れてもらうよう主張する

この分野では、「Theological Insights (神学的洞察・明察)」というタイトルで若い女性神学者3名に3度にわたってオンラインでのプレゼンテーションを企画し、大変好評でした。この女性たちは全員以前は聖ヨセフ・ワーカー・プログラムに所属していました。合計822名・グループがこの三つのウェビナーに申し込みました。この最初のシリーズが好評でしたので2021年も企画することを考えています。女性がリードする礼拝も奨励し、就任式と二回行われた修道会リーダーシップ・グループの会議の際に実践しました。上記でも触れましたように、CLTはPhyllis Zagano 著の「Women: Icons of Christ」という、女性によるミニストリー(職務)の歴史、特にdeacon(助祭、執事)として任命された女性について語る本を読み、話し合いをしました。上記で述べましたLCWRシリーズのRegion Xの最初のパネルディスカッションは、人種差別、移民問題、環境問題における連動システムのなかで特に女性はどうのように対応できるか、などについて論議・探究します。

真実を表現しようとする人を援助するために私達の集合的な「声」を使う

地球保護、抑圧システムの問題、教会や社会で援助の必要な女性たち、その他か下記に挙げられた分野において、私達の総会の方向性にのっとり、私達の集合的な「声」を使い主張してきました。上記で述べましたように、主張の文書・ステートメントを書いたりサインする際は、実際に私達が支援、或いは実践できるものみの内容を提出しました。その都度、修道会全体、そしてACOFにもこれらのレターやステートメントをシェアし、ミニストリーのパートナーも同じように行動を起こすよう依頼しました。時には、実際にそのような抑制された経験のある人たちから直接話や体験を聞いたほうが効果があります。その人たちがローカル、州、や全米のグループの前でも話ができるように、表現の仕方トレーニング・勉強・練習をしてもらうためのオンラインのコースも企画しています。この小さなステップが唱道・主張やロビー活動へと繋がります。

修道会内での会合

2019年の総会での決定事項で、シスター同士やACOFとのシェアリングや話し合いの場を提供することを継続することに関し、この会合・集会を企画するグループ(コミッティー)を結成しました。このコミッティーから出たアイデア・計画は下記の取りです:

- 上記で述べました Sharing of the Heart/Order of the House のグループディスカッションは2021年の四旬節の期間中に行われます。5名ずつのグループに分かれますが、シスターやACOF、そしてそれぞれ修道会の中でも違う管区に所属している人などできる限り多様性のあるグループを結成して欲しいと思います。
- 上記に述べましたように、「Theological Insights (神学的洞察・明察)」のシリーズのプレゼンターは全員 St. Joseph Worker program (聖ヨセフのワーカープログラム) と ACOF に所属していました。オンラインのプログラムは通訳を提供しましたので、日本語とスペイン語の人も参加することができました。
- 上記で述べましたように、3週間に渡って週末に全修道会において、スペイン語の通訳入りで、CLTはオープンな Zoom 会合を企画しました。

- 総会の方向性のアンケートでは、多くの方が、勉強会形式の会合を希望しました。つきましては、Wisdom Ways Spirituality Center という St. Paul のミニストリーと協力し Mark's Gospel (マルコ福音書) の勉強会を、無料でシスターや ACOF に提供いたします。

焦点を置くべき事柄

やりたいこと全てをやることはできないことは認識していますが、総会で決まったの方向性の他に、LCWR、連盟、世界情勢の観点、そして長期的取り組みから、いくつかの「FOCUS AREA (焦点を置くべき事柄)」を明らかにしました。これらの事柄に関してはタイミングを見てレターやステートメントを州や国の政治家・国会議員等に出したり、他のアクションを取りたいと思っています。正義の修復、人種差別、移民問題、人身売買などの問題に取り組んでいきたいと思っています。この一年間を通して、皆様にもこれらの問題に対して何らかのアクションを取ってくれるよう呼びかけをしました。

リエゾン (連絡係) の責任・任務

ACOF (Associates, Consociates, Ohana and Familia de San Jose) は2020年の6月にセントポールにて主教区会議のために集まることができませんでしたが、そこで諦めることはしませんでした。その後、Zoom を通して、主教区会議のために彼女たちが準備したプレゼンテーションをより多くのシスターや SCOF に披露することができました。ディレクター (指導者) たちは毎月インターネットでの会議を重ね、このようなプレゼンテーションを企画・調整し2021年4月の会議で更に検討することになっています。

(集まる仲間)。「Agrégee companions (集まる仲間)」と行動を共にしているシスター達は2020年6月にインターネットを活用し恒例のリトリートを行いました。このグループは CLT の連絡係と共に一か月ごとにインターネット上で会合を行い、互いの進展状況を報告し合い、リトリートで設定した目標を達成する努力をし、発足当時の方針を具現できるように努めています。更に、使命 (Vocation) のストーリーをシェアしているビデオの仕上げをしているところだそうです。

(構成)。二年半の修道会の修練期 (Novitiate) を経て、一つの特定のグループがこのプログラムを評価しました。修練者の指導者 (ディレクター)、修練者、そして修練者と共に時間を過ごした人達に配布するアンケートを作成し、そのグループがそのアンケートを回収しまとめてくれました。この情報は2021年2月に CLG に提出され、今後のレコメンデーションに使われます。一つのグループは修道会構成計画を修正し、完成させる作業も行いました。

(JPIC-創造物の正義、平和と保全)。JPIC はプログラムの企画や唱道・主張の計画立て等でこの一年間忙しく活動しました。今年は多くのメンバーが加盟したため、メンバーの交流を深めるため、そして今年のプラン立てに集中できるよう2020年10月に恒例のリトリートが行われました。

(リタイアメント・退職・引退) .リタイアメント・グループの半年ごとの会合は2021年9月まで延期となりました。このグループは欠席でしたが、この地域のグループのリーダーたちは月に二回会合を行い、現在の困難な状況の中お互いを励まし合いアイデアを出し合いました。

(ボケーション・使命) .今年新たに数名の人がこのグループに加盟しました。このグループは修道会のウェブサイトのボケーション（使命）のページの更新に努め、ボケーションの資料作りのための共通のテーマを設定し、共に前進できる方法を検討してきました。

日常の機能・業務

上記活動の他に、毎日の日常的な機能・業務もこなしてきました。私たち一人一人がそれぞれにワーク・グループやコミッティーのリエゾン（連絡係）も務めています。上記ワーク・グループの他に、コミュニケーション、開発・促進、財務、形成と情報のテクノロジーのグループもあります。これらのグループの業務の活動は様々で、中には密に連絡を取り合いながら月に一度は会合を開くグループもあれば、中には定期的な会合はせず必要に応じた活動をしているグループもあります。

各コミッティーも今年には会合を行いました。「修道会内の会合コミッティー」は、各地域に点在するシスターたちやACOFをオンライン上で集ってもらい顔合わせをする方法、そしてできれば近い将来、本人同士が面と向かい合って会合ができる方法等に焦点を置き、企画会議を行いました。アド・ホック（特別・臨時）財務コミッティーとリソース（資源）コミッティーの業務は前CLTからの作業を引き継ぎ、業務は終了しました。その他のコミッティーはSharing of the Heart/Order of the House開始の準備の補助をしました。更にラウダート・シの催しと創造の季節のプランニングと実施の補助をしました。

コロナの状況に関わらず、私達が連絡係を務めている管区・副管区間と会合を開くこともできました。バーチャルのアセンブリー、祈りのサービスやウェビナーなどでシスター達と集まりました。修道会リーダーシップグループ会議では各リーダーシップチームと共に時間を過ごし、時には相談にも乗ってもらいました。

昨年5月に、長期にわたりエグゼクティブアシスタント（秘書業務）を務めてくれたPam Hardingが退職しました。彼女のように経験豊かでしっかりとしたノウハウを持っていた人は残念ながらなくなりましたが、これを機に現代のニーズに応じた技術やスキルを要する「プロジェクト・コーディネーター」というポジションを設けました。このポジションには、ソフトウェアを学び取り入れること、データを集め、普及すること、そして修道会のコミュニケーションのサポートをする、という三つの主な業務があります。幸いにLauren Clancyがこのポジションに就いてくれまして、彼女はこの業務を喜んでこなしてくれています。

CLT はこれらの他に、会議をリードしたり、レポートを作成したり、スタッフの管理など、その他運営・管理に必要な日常的な業務もこなしています。

スタッフ)

もちろん、献身的で、素晴らしく能率よく仕事をこなしてくれるスタッフがいなければ、私達は上記の業務をこなすことはできませんでした。

- エグゼクティブ・セクレタリー（事務局長）の Barbara Siderwicz, OCF がいなければ、オフィス全体がめちゃくちゃになっていると思います。彼女の能率・効率の良い仕事のお陰で、このコロナの状況にもかかわらず、私達の一年目の業務が軌道から外れることなく、きちんとこなすことができました。電話で様々な質問が出たり問題が起こっても快く対応してくれ、笑顔を絶やさずに一度に沢山の仕事をマルチタスクできる彼女は、私達にとっては非常に貴重な存在です。Barbara が作成してくれる会議の議事録は、即参考資料として役立つだけでなく、私達の大切な歴史・資料としても残ります。Barbara はこのコロナ禍という異常な一年間の間、Zoom の管理をし、必要に応じて翻訳や通訳の手配もしてくれました。
- 修道会コミュニケーション・ディレクターの Kim Westerman には多大な仕事量を投げかけましたが、彼女はそれを全てこなしてくれました。コロナのため、コミュニケーションの面では更に彼女の仕事量が増えました。彼女の通常業務である年間のマガジンの作成、週二回発行の「We Are Carondelet（私達はカロンデレットである）」の配信、ウェブサイトの更新、ソーシャルメディア（SNS）のポスティング、唱道・主張レターの作成などの他に、毎週のコロナ情報のアップデートを流し、みんなの心を「美」で癒すため毎週ポエムを送信し、その上、機関誌「For the Life of the World（地球の命のために）」も出版しました。更に、Kim は各管区のコミュニケーション・ディレクターの毎月の会議の企画をし、プロのコミュニケーショングループとの会合にも参加し、今年は上記で述べました LCWR の各地域のパネルディスカッションにも参加しました。
- プロジェクト・コーディネーターの Lauren Clancy が昨年の7月からチームに加わってから、Microsoft SharePoint, Teams などオンラインのコラボレーションのためのソフトウェアを取り入れ、トレーニングをしてくれたりと、非常に重要な専門技術を活用してくれています。エレクトロニクス・テック関係は彼女がいるお陰で私たちは安心して業務をこなすことができます。
- カロンデレットの統合されたアーカイブ（記録保管所）のディレクターの Catherine Lucy は素晴らしい記録の保管のサービスを提供してくれています。各管区のアーカイブの担当の人たちも彼女との仕事はとてもやりやすいと喜んでいますが、通常ですとリサーチをする際必要な記録や書類をオフィスに取りに来ることができましたが、今はコロナのため、Catherine が可能な限り電子的に資料を送信したり、更に長期プロジェクトにも取り組んでくれています。
- 修道会記録保管人の Carol Marie Wildt, SSND は記録の保管のエキスペートで、彼女の知識とノウハウでもって信頼のおける仕事をしていています。保管すべき資料をきちんと整理して保管し、必要になった資料はすぐに見つけられるように管理してくれています。

- 副ミッション・コーディネーターの Eleanor Ortega は心をこめて、かつ有能な管理スキルでもってミッション・オフィスの管理をしてくれています。コロナのため、彼女の通常の業務は中断されましたが、彼女は動揺することなく臨機応変にこの状況を切り抜けています。彼女は、寄付金の礼状を書いたり、受け取ったりして管理し、監督管区でのミッションの要請をコーディネートし、米国ミッション・コンファレンスの最新情報を随時連絡してくれます。
- 簿記係の Tom Ratz はいつも効率的かつ正確・適格な財務のノウハウを提供してくれます。彼はいつも簡潔かつ正確でわかりやすいレポートを作成してくれます。どんな質問をしてもいつも快く対応してくれます。

結論

毎年多少は調整しなければならない事項は起こりますが、今年は本当に様々な調整が必要な一年間でした。調整の必要な事項が発生するたびに、その都度新しい方法を見いだしながらなんとか業務をこなしてきました。コロナのため、顔を合わせた会合や、連盟や LCWR の他のリーダーたちとの直接会っての会議等を行うことができなかつた等、困難なことも多々ありました。しかし、お恵みだったのは、長時間に渡る会話やリフレクション（振り返り）をお互いにすることができたことです。これは実際にお互いの地域に行ったり来たりしていたらそれだけゆとりを持った時間を設けることはできなかったかもしれません。インターネットのお陰で様々な業務等をこなすことはできましたが、一方でお互いの絆を深めるための非公式なカジュアルな集まりや顔合わせができなかつたのは残念でした。今、世界中がこの問題に取り組んでいると思います。いずれにしましても、修道会のために奉仕できるこの機会をいただけたこと、皆様のお陰で多くのことを成し遂げることができたことはとてもありがたいことだと思っています。そしてコロナの制限が少しずつ緩和されていく中で、新たなアジャストメントを皆様と共にいき、これから更に前進していくことを楽しみにしています。